

## 2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	設備管理指針検討小委員会		主 査 名：関口正男 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (設備運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：
設 置 期 間	2007 年 4 月 ～ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設備管理指針の検討</li> <li>・ 建築設備管理指針のアカデミックスタンダード化に対する検討</li> <li>・</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：		
	関口正男 (前橋工大)、永峯章 (東洋大学)、前川甲陽 (日本環境管理学会)、安蘇秀徳 (東京美装)、我孫子義彦 (ジェス)、蒲田元康 (東京大学)、小松正佳 (NTT ファシリテーズ)、中島康孝 (NPO 法人建築環境・設備技術情報センター)、田中毅弘 (東京工大)、八木沢雅幸 (三機工業)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2007 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)。ただし、電子メールを用いた通信会議は度々行っている。
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	AIJES 建築設備ガイドライン (2008 年 6 月刊行)
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	2007 年シンポジウム開催
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 建築経済委員会との合同で進めていたが、進行の度合いが合わずに進行せず。 2. 3.
委員会活動の問題点・課題	1. 建築経済委員会との合同で活動する場合、活動が頓挫する事があるため、十分な予備検討会議が必要であった。 2. 3.

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

## 2008 年度 小委員会活動 自己評価

## (中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>D</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本設備管理指針検討小委員会は建物管理のガイドラインの作成にあたってきた。2006年度で設備管理ガイドラインはほぼ完成し、2008年にはAIJES建築設備管理ガイドラインが刊行された。また、建物管理・清掃管理ガイドラインについては未完成であった。これらのガイドラインは特に対象建築物を学校や大規模マンションにまで広げ、アカデミックスタンダード化が計画されていた。2007年度では建物管理・清掃管理ガイドラインについては査読をして頂いたが、その内容についての問題指摘、修正の項目が多く、また、内容も国土交通省から発刊されている建物管理に関する規準書との差異が見いだせないとの判断から、執筆担当者から、降りたいとの意思表示があり、実質的に作業が終了した。以上のことから、本小委員会の活動が事実上頓挫したことになった。このような結果から、事項評価はDと評価せざるを得ない。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。